

飼料添加物（ノシヘプタイド）に係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集結果について

1. 実施期間 平成 21 年 2 月 19 日～平成 21 年 3 月 20 日
2. 提出方法 インターネット、ファックス、郵送
3. 提出状況 1 通（1 通に複数意見の記載の場合あり）

	御意見・情報の概要	専門調査会の回答
1	<p>今回のノシヘプタイドのADIの設定に際し、毒性学的ADI (0.023 mg/kg体重/日)と微生物学的ADI(0.00018 mg/kg体重/日)とを比較し、より低い方の微生物学的ADIをADIとして採用しています。</p> <p>ノシヘプタイドは20年以上にわたって鶏及び豚用の飼料添加物として使用されていますが、今日まで、動物及びヒトに対する副作用の報告はありません。</p> <p>一般にADIは安全性指標として用いられています。今回のADIは、毒性の高いといわれる有機リン系農薬より低い値となっており、ノシヘプタイドが強毒のような印象を与え、不必要な誤解や不安を与えることになるのではないかと危惧します。</p> <p>ノシヘプタイドの生体に対する影響から考えて、今回のADIの案は受け入れ難い数値と思われます。</p> <p>微生物学的ADIの採用することが適当か否かを、再度ご検討いただきたい。</p>	<p>飼料添加物に係る食品健康影響評価は、食品中に残留する飼料添加物がヒトの健康に与える影響を評価するものです。</p> <p>抗菌性物質の評価に当たっては、各種毒性に関する知見から得られる毒性学的ADIを設定するほか、ヒト腸内細菌叢に及ぼす影響を評価するための指標として、現時点で国際的コンセンサスが得られている方法により微生物学的ADIも設定しています。</p> <p>食品健康影響評価におけるADIの設定に当たっては、毒性学的ADIと微生物学的ADIとを比較し、安全性を担保するため、原則として、より小さい値を採用することとしています。</p> <p>今回のノシヘプタイドの評価についても、このような考え方に基づいて評価を行ったものであり、微生物学的ADIを採用することは妥当であると考えます。</p> <p>評価書には毒性学的ADIではなく微生物学的ADIを採用したことが明記されていますので、この点をご理解いただければご懸念の点は解消するのではないかと考えます。</p>